



Oracle® Hyperion Enterprise Performance Management Workspace

リリース 11.1.2.3

Accessibility Guide

ORACLE
ENTERPRISE PERFORMANCE
MANAGEMENT SYSTEM

目次

はじめに	2
EPM Workspace のアクセシビリティの有効化	2
EPM Workspace のアクセシビリティの機能	3
EPM Workspace のキーボード・ショートカット	3

はじめに

このガイドでは、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace のアクセシビリティ機能について説明します。サポートされる支援テクノロジーについては、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストール概要』ガイドを参照してください。

オラクルのお客様は、My Oracle Support を通じて電子サポートを得ることができます。詳細は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> を参照するか、聴覚に障害がある場合は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

オラクル社のアクセシビリティに対する取組みの詳細は、オラクル社のアクセシビリティ・プログラムに関する Web サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

EPM Workspace のアクセシビリティの有効化

注： EPM Workspace の「スクリーン・リーダー・サポートの使用可能」プリファレンスでは、スクリーン・リーダーや拡大鏡で EPM Workspace にアクセスしたり、使用できます。セッション中に「スクリーン・リーダー・サポートの使用可能」プリファレンス設定を変更した場合、ブラウザを再起動して変更を有効にする必要があります。

JAWS(R)スクリーン・リーダー・ソフトウェアを使用している場合は、Microsoft Internet Explorer ブラウザを使用することをお勧めします。

▶ アクセシビリティを使用可能にするには:

- 1 EPM Workspace で、「ファイル」、「プリファレンス」の順に選択します。
- 2 「アクセシビリティ・モード」で「スクリーン・リーダー・サポートの使用可能」を選択します。

このオプションを選択すると、インストール済のスクリーン・リーダーが、画面に表示された情報を読み上げることが可能になります。

注： 「スクリーン・リーダー・サポートの使用可能」は、Microsoft Internet Explorer を使用する場合、EPM Workspace ユーザー・プリファレンスの「全般」タブに表示されます。

- 3 「OK」をクリックします。

EPM Workspace のアクセシビリティの機能

高コントラスト・モードの設定

高コントラスト・カラー・モードはアクセシビリティ・モードを高めるために使用できます。このオプションは、スクリーン・リーダーがサポートされているプラットフォームでのみサポートされています。

▶ 高コントラスト・モードを設定するには:

- 1 「ファイル」メニューから「プリファレンス」を選択します。
- 2 「アクセシビリティ・モード」を選択し、「テーマの選択」ドロップダウンから「コントラスト(高)」を選択します。
- 3 「OK」をクリックします。

EPM Workspace のユーザー・インタフェースでの [Tab] キーの使用

EPM Workspace UI のデフォルトのタブ順序は、左から右、上から下に移動します。タブ順は双方向にループするため、最後のアイテムからタブ移動すると最初のアイテムにフォーカスが移動し、最初のアイテムから逆タブ移動すると最後のアイテムにフォーカスが移動します。

EPM Workspace のキーボード・ショートカット

グローバル・ナビゲーション・ショートカットの使用

EPM Workspace は、一般的なナビゲーション用のキーボード・ショートカットを提供します。

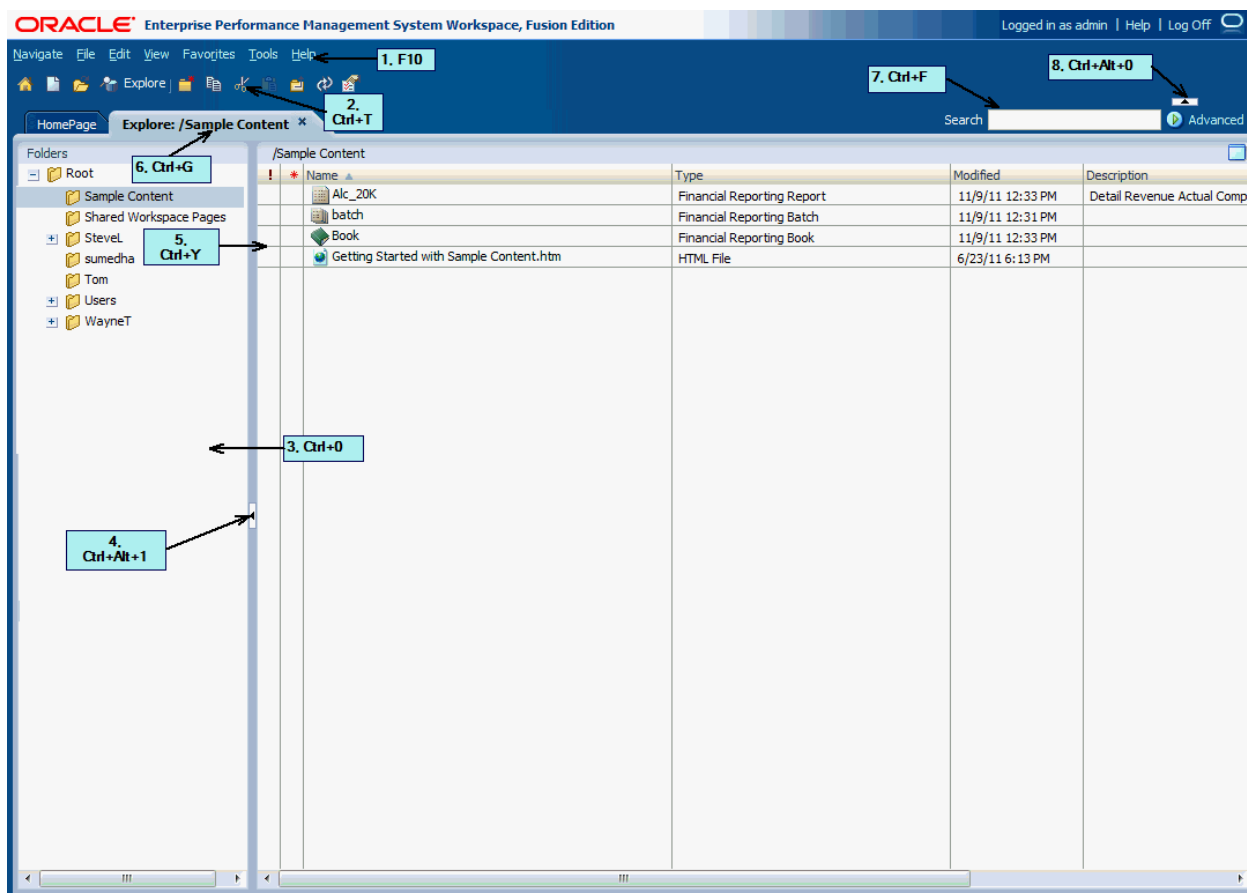
表 1 グローバル・ナビゲーション・ショートカット

キー	アクション
[F10]	メニュー・バーの最初のメニューにフォーカスを移動します。
[Ctrl]+[0]	現在のビュー・ペインのタブ順で最初のフォーカス可能な子にフォーカスを移動します。ビュー・ペインがない場合、何も行われません。
[Ctrl]+[1]、 [2]...[9]	[Ctrl]+[0]と同じですが、アクションは、指定したビュー・ペインに適用されます。たとえば、[Ctrl]+[3]を押すと、3番目のビュー・ペインのタブ順で最初のフォーカス可能な子にフォーカスを移動します。

キー	アクション
[Ctrl]+[B]	注釈領域のコントロールにフォーカスを移動します。このオプションは、Oracle Hyperion Financial Reporting の場合のみです。Oracle Hyperion Financial Reporting Workspace User's Guide を参照してください。
[Ctrl]+[G]	EPM Workspace の「コンテンツ」タブ・バー(開いているモジュールをリストする)にフォーカスを移動します。フォーカスは現在のモジュール・タブに移動します。複数のドキュメントが開いている場合は、現在のモジュール・タブが強調表示されます。タブが開いていない場合、何も行われません。
[Ctrl]+[F]	「検索」フィールドにフォーカスを移動します。
[Ctrl]+[T]	標準ツールバーにフォーカスを移動します。個々のボタンを選択するには[Tab]キーを使用します。
[Ctrl]+[Y]	「コンテンツ」領域にフォーカスを移動します。アクティブ・ドキュメントの「コンテンツ」領域のタブ順で最初のフォーカス可能な子にフォーカスを移動します。
[Ctrl]+[F4]	現在のアクティブなモジュール(ドキュメント、タスクまたはファイル)を閉じます。何も開いていない場合、何も行われません。
[Ctrl]+[F6]	フレームのコンテンツ領域に移動し、フォーカス可能な最初の要素(存在する場合)にフォーカスを移動します。
[Ctrl]+[Shift]+[F6]	フォーカスをフレームのコンテンツ領域からフレームに戻します。
[Ctrl]+[L]	リンク・リスト・ウィンドウ内の選択可能なナビゲーション・ターゲットのリストを表示します: <ul style="list-style-type: none"> ● ビュー・ペインに移動 ● コンテンツ領域に移動 ● 注釈領域に移動 ● タブ・バーに移動 ● ツールバーに移動
[Ctrl]+[Alt]+[0]	マストヘッドの表示と非表示を切り替えます。 注: マストヘッドを、ログオン・ページのナビゲーション・ショートカット・キーを使用して非表示にすることはできません。

EPM Workspace の図とコールアウト

次の図は、キーボード・ショートカットを使用してエクスプローラ・モードを移動する方法を示します。他の EPM Workspace モードでも同じショートカットを使用します。



EPM Workspace ユーザー・インターフェースには次の領域が含まれます。

1. メニュー・バー([F10]) - タスクおよびモジュールを整理したコマンドおよびサブコマンド。
2. 標準ツールバー([Ctrl]+[T]) - タスクを実行するボタン。
3. ビュー・ペイン([Ctrl]+[0]) - ゼロ個以上のパネル間をジャンプできるボタンを含む領域。各パネルには特定の使用方法とそれに対応するコントロールがあります。
4. ビュー・ペインおよびコンテンツ領域アジャスタ ([Ctrl]+[Alt]+[1])- ビュー・ペインおよびコンテンツ領域のサイズを調節する設定。ビュー・ペインを非表示にすると、EPM Workspace を使用するためのコンテンツ・フレームが大きくなります。「表示」、「ビュー・ペイン」の順に選択して、ビュー・ペインを表示または非表示にします。
5. コンテンツ領域([Ctrl]+[Y]) - アクティブなモジュール・ドキュメント、タスクまたはファイルを表示する領域。
6. コンテンツ・タブ・バー([Ctrl]+[G]) - 現在のモジュール固有の情報バー。複数のドキュメントが開いている場合、現在のドキュメント・タブが強調表示されます。
7. 検索フィールド([Ctrl]+[F]) - リポジトリ検索用のテキストを入力するための領域。
8. メニューおよびツールバーの表示([Ctrl]+[Alt]+[0]) - メニューおよびツールバー領域の表示または非表示の設定。

全般 UI 要素のアクセシビリティ動作

次に、ユーザー・インタフェース(UI)要素の固有のキーストロークと、UI 要素にフォーカスがあるときのスクリーン・リーダーの予期される動作を示します:

表 2 ユーザー・インタフェース要素タイプ

UI 要素	アクション
ボタン	<p>[Enter]または[Space]を押すとボタンがアクティブになり、左クリックと同じアクションを起こします。</p> <p>注: Microsoft Internet Explorer では、ボタン・アクセラレータは[Alt]+<letter>によってトリガーされます。Mozilla Firefox では、[Alt]+[Shift]+<letter>によってトリガーされます。</p>
コンボ・ボックス	<ol style="list-style-type: none">1. 上下矢印キーでポップアップ・メニューが表示され、値を選択できます。2. [Space]または[Enter]でアイテムを選択します。3. 編集可能な場合、英数字キーで編集します。
ダイアログ	<ol style="list-style-type: none">1. ダイアログ・ボックスに承認ボタンが定義されている場合、[Enter]を押すとアクティブになります。2. ダイアログ・ボックスはモーダルで、他のすべてのキーボード・イベントをブロックします。
コンテンツ領域(IFrame)	<ol style="list-style-type: none">1. [Ctrl]+[F6]を押すと、フレームに移動します。最初のフォーカス可能なアイテムを選択するには、[Tab]を押す必要があります。2. [Ctrl]+[Shift]+[F6]を押すと、フォーカスがフレームのコンテンツ領域からフレームに戻ります。
リスト	<ol style="list-style-type: none">1. 上下矢印キーは、要素のリストの中で選択フォーカスを上下に移動します。選択は、継続的に更新されます。2. [Ctrl]+[↑]または[Ctrl]+[↓]で、現在の選択を変更せずに上下にフォーカスが移動します。[Space]を押すと、アイテムが選択に追加されます。3. [Shift]+[↑]または[Shift]+[↓]キーでフォーカスが上下に移動し、フォーカスのあるアイテムが選択に追加されます。 <p>注: リストが1つの選択のみサポートする場合、[Ctrl]および[Shift]キー修飾子は無効です。</p>
タブ・バー	<p>[←][→]キーはフォーカスを移動し、直ちに新しいタブを選択します。選択のフォーカスはタブ・バーの端からラップします。</p>
テキスト・フィールド	<ol style="list-style-type: none">1. 編集可能な場合、英数字キーで編集します。2. [Tab]を押すとタブ順の次の要素にフォーカスを移動します。タブは、テキスト・フィールドの文字として入力できません。
ツリー	<p>[←][→]キーは、子があれば現在のノードを縮小または拡大します。子がない場合は、何も起きません。拡大は、再帰的ではありません。ツリーにサブノードの前の展開状態が記録されている場合は、その状態になります。</p>

非標準コントロールのアクセシビリティ動作

次に、非標準コントロールのアクセシビリティ動作を説明します。

コンテンツ・タブ・バー

コンテンツ・タブ・バーにフォーカスがある場合、選択のフォーカスは現在のタブにあります(該当する場合)。

表3 コンテンツ・タブ・バー-アクセシビリティ・キー

キー	アクション
[→]/[↑]	任意のドキュメントのコンテンツ・タブで、右側の次のタブが選択されます。選択は、一番右のタブから一番左にラップします。
[←]/[↓]	任意のドキュメントのコンテンツ・タブで、左側の次のタブが選択されます。選択は、一番左のタブから一番右にラップします。

サイドバー・アイコン・リストのアクセシビリティ

次のキーボード・ショートカットが、「ファイル」メニューの「プリファレンス」および「プロパティ」オプションのサイドバー・アイコン・リストでサポートされています。

表4 サイドバー・アイコン・リスト-アクセシビリティ・キー

キー	アクション
[Tab]/[Shift]+[Tab]	リスト内のアイテムを上または下にナビゲートします。
[Space]	フォーカスのあるリストのアイテムを選択します。

オンライン・ヘルプのアクセシビリティ

スクリーン・リーダー・サポートのプリファレンスが有効になっている場合(2 ページの「[EPM Workspace のアクセシビリティの有効化](#)」に関する項を参照)、ヘルプ・トピックがドキュメント順序の先頭になり、ヘルプ・ツールバーの上に表示されるように、ヘルプ・ウィンドウが視覚的に再配置されます。これにより、オンライン・ヘルプの起動時に、スクリーン・リーダー・プログラムは最初にヘルプ・トピックを読み上げるようになります。表5に、オンライン・ヘルプのキーボード・ショートカットを示します。

次に、オンライン・ヘルプを使用する際に必要な追加情報を示します。

- スクリーン・リーダー・ユーザーを支援するために、ページが「ヘルプ・トピック」フレームにロードされると、スクリプティングにより、フォーカスはロードされたドキュメントにシフトします。たとえば、ヘルプを開くと、フォーカスはヘルプ・トピック・フレーム・ドキュメントに設定されます。
- スクリーン・リーダーで仮想 PC カーソル・オプションを使用し、ヘルプ・トピックを読み上げます。[Insert]+[Z]を押して仮想 PC カーソルを切り替え、JAWS コマンドを使用してテキストを読み上げます。
- フォーム・コントロールなどの HTML 要素は、通常、ブラウザ(該当する場合はスクリーン・リーダー)で予測されるように機能します。次のようにいくつかの例外があります。
 - 目次ページ: 選択したヘルプ・システムの目次を表示するツリーには、次の2種類のリンクがあります。

- ターゲット・トピック・タイトルを含むリンク。これらのリンクをアクティブにする場合、ターゲット・トピックは「ヘルプ・トピック」フレームで開き、フォーカスは該当トピックに移動します。
- サブトピックを開くリンク。フォーカスがこのリンク上にある場合、スクリーン・リーダー・プログラムは次のいずれかを読み上げます。
 - サブトピック・リンクを展開する場合はノードを折りたたみます。リンクをアクティブにすると、タブの順序からサブトピック・リンクが除去されます。
 - サブトピック・リンクが折りたたまれている場合は、ノードの展開。リンクをアクティブにすると、サブトピック・リンクがタブ順に含まれます。

この種類のリンクをアクティブにすると、タブの順序の次のリンクがトピックになり、その後にサブトピックが続きます。

これらのリンクは、タブ順で対応するトピック・リンクの前にあります。トピックにサブトピックがあるかどうかを判別するには、[Shift]+[Tab]を押します。スクリーン・リーダーがノードの展開またはノードの折りたたみと読み上げた場合、トピックにサブトピックがあります。

- 索引ページと目次ページ:「製品を選択してください」ドロップダウン・リストで選択を行う場合、「ヘルプ・システムを選択してください」ドロップダウン・リストの現在の値が変わり、製品に使用可能なヘルプ・システム・タイプが反映されます。製品の変更後、目的のヘルプ・システム・タイプを選択する必要があります。
- 「検索」ページ:
 - スクリーン・リーダーを使用する場合、検索フォーム、または索引および目次タブで異なるヘルプ・システムを選択するフォームでは、スクリーン・リーダーは、フォームを送信する以外の目的で、[Enter]キーを使用する場合があります。たとえば、あるコンテキストでは、スクリーン・リーダーは[Enter]を使用してフォーム・モードを切り替えます。その場合、次のボタンにフォーカスを移動するショートカットを使用してフォームを送信できます。
 - 「次の製品のヘルプを検索してください」で「すべて」チェック・ボックスを選択した場合、選択されていた製品のチェック・ボックスはクリアされます。
 - 「次の製品のヘルプを検索してください」で「すべて」チェック・ボックスを選択し、次に製品のチェック・ボックスを選択した場合、「すべて」チェック・ボックスはクリアされます。
 - 「次のタイプのヘルプ・システムを検索してください」で「すべて」チェック・ボックスを選択した場合、選択されていたヘルプ・タイプのチェック・ボックスはクリアされます。
 - 「次のタイプのヘルプ・システムを検索してください」で「すべて」チェック・ボックスを選択し、次にヘルプ・タイプのチェック・ボックスを選択した場合、「すべて」チェック・ボックスはクリアされます。

注： 次の表「オンライン・ヘルプ - キーボード・ショートカット」のショートカット・キーが機能するには、ヘルプをインストールおよび構成し、ローカルで実行する必要があります。詳細は、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide のオンライン・ヘルプのインストールおよび構成に関する項を参照してください。

表 5 オンライン・ヘルプ - キーボード・ショートカット

キー	アクション
[Ctrl]+ [SHIFT]+[1]	<p>「ナビゲーション」フレームで目次ページを開いてフォーカスを移動します。表示された目次の項目は、現在表示されているヘルプ・トピックが含まれるヘルプ・システムの項目です。</p> <p>目次は、次を含むフレームで構成されています:</p> <ul style="list-style-type: none"> 異なるヘルプ・システムの目次を選択するためのフォーム。別のヘルプ・システムを選択すると、ヘルプ・トピック・フレームが更新されて、選択されたヘルプ・システムの起動ページが表示されます。 目次のリンク。
[Ctrl]+ [SHIFT]+[2]	<p>「ナビゲーション」フレームでインデックスを開いてフォーカスを移動します。表示されたインデックスの項目は、現在表示されているヘルプ・トピックが含まれるヘルプ・システムの項目です。</p> <p>インデックスは、次を含むフレームで構成されています:</p> <ul style="list-style-type: none"> 異なるヘルプ・システムのインデックスを選択するためのフォーム。別のヘルプ・システムを選択すると、ヘルプ・トピック・フレームが更新されて、選択されたヘルプ・システムの起動ページが表示されます。 索引項目へのショートカット・リンク。アルファベット順に分類されています。 索引項目のリンク。
[Ctrl]+ [Shift]+[3]	<p>「ナビゲーション」フレームで「検索」フレームを開いてフォーカスを移動します。</p>
[Ctrl]+ [SHIFT]+[4]	<p>ヘルプ・トピックと検索結果を含むフレームであるコンテンツ・フレームにフォーカスを移動します。</p> <p>注： ページが予想どおりに読み取れていない場合、フォーム・モードをオフにしてください。</p>
[Ctrl]+ [SHIFT]+[5]	<p>様々なヘルプ機能へのリンクを含むツールバー・フレームにフォーカスを移動します。</p>

考慮事項

このリリースのアクセシビリティ・ユーザーが注意する必要がある項目は次のとおりです。

注： システム要件については、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System の動作保証マトリックスを確認してください。これは、<http://www.oracle.com/technetwork/middleware/ias/downloads/fusion-certification-100350.html>(「Business Intelligence」下)にあります。

- EPM Workspace では、ARIA 属性 role=application が使用されます。これは、EPM Workspace を開くと一箇所で行われます。この設定によって、EPM

Workspace が Web ドキュメントではなくアプリケーションのように動作することを示すアクセシビリティ・ツール設定を手動で指定する必要がなくなる場合があります。

- スクリーン・リーダー・モードが有効な場合、フォーカスがツールバーの最後のアイテムにあるとき、次のコントロールにフォーカスを移動するには、[Tab]を2回押す必要がある場合があります。
- Internet Explorer 9 を使用する場合、[Ctrl]+[Alt]+[0]を押してもマストヘッドが表示されない場合があります。マストヘッドを表示するには、マストヘッドを表示する場所にマウスを移動します。
- [Esc]を押してメイン・メニューを終了すると、メニューが閉じた後にもう一度[Esc]を押してメニュー・バーからフォーカスを削除する必要があります。
- I-Frame を含むダイアログの「次へ」または「取消し」ボタンのアクセラレータは二回押す必要があります。たとえば、フォーカスがダイアログの I-Frame 内にあるときに EPM Workspace の「インポート」ダイアログで、「次へ」または「取消し」ボタンのアクセラレータ[Alt]+[X]および[Alt]+[L]を二回押す必要があります。これらのキーを押すと、一度目で I-Frame からフォーカスを削除し、二度目でアクセラレータが有効になります。
- バージョン 11.1.x からアップグレードされたシステムでは、ユーザーが以前のバージョンで高コントラスト・テーマを選択していた場合、新しいバージョンに初めてログインしたときに正しいテーマが表示されません。正しいテーマは、二度目のログインで有効になります。
- グローバル・ナビゲーション・ショートカット・キー[F10]を使用してフォーカスをメニュー・バーの最初のメニューに移動する場合、現在のフォーカスがコンボ・ボックス・リスト内にあると、一部の Web ブラウザでは[F10]キーが適切に機能しません。コンボ・ボックスからフォーカスを移動させると、[F10]は正しく機能します。
- ユーザー、グループまたはロールのリストは、矢印キーを使用してアイテムを選択すると予期せずスクロールします。この問題を回避するには、1 ページの表示に返されるアイテムの数を制限するために検索フィールドにより厳しい基準を入力します。
- EPM Workspace の最上位メニューには、[Alt]キーとメニューに対応する文字を使用してアクセスできます。メニューが開いている場合、[Alt]キーは必要ありません。メニュー・アイテムへのアクセスに使用しないでください。目的のサブメニュー・アイテムに対応する文字のみを押して、そのアイテムを選択します。たとえば、[Alt]+[F]を押して「ファイル」メニューを開き、その後「ファイル」メニューの「新規」メニュー・アイテムを選択するには[N]を押します。
- EPM Workspace メニューを開いた後は、矢印キーを使用してメニュー・アイテムを移動できます。これは、メニューが開くとアクセシビリティ・ツールで告知されます。ただし、ユーザーがメニュー内で移動を開始して初めてこのナビゲーション・ヒントが読み取られるとインスタンスが存在することになります。
- 無効なコンポーネントにフォーカスを移動できません。また、無効なコンポーネントは読み取れません。

- リスト・ボックス・コントロールは、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace がアクセシビリティ・モードで使用されて表示がスクロールされる場合、適切に表示されない場合があります。一般に、Microsoft Internet Explorer 7 以上ではこれらのスクロールの問題は発生しませんが、古いビデオ・カードやドライバでは問題が発生することがあります。また、アクセシビリティ・モードでは一部のリスト・ボックスがドロップダウン・コントロールとして表示されることがあります。
- 状況によっては、スクリーン・リーダーにより、必要以上の情報(イメージの URL など)が読み取られることがあります。

著作権情報

EPM Workspace Accessibility Guide, 11.1.2.3

Copyright © 2012, 2013, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM 情報開発チーム

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS:

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。